

1. 評価結果概要表

平成 20年 9月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2070700212
法人名	社会福祉法人グリーンアルム福祉会
事業所名	グリーンクリスタル
所在地	須坂市大字仁礼7-10 (電話) 026-215-2662

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年10月4日

【情報提供票より】(20年 7月 31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 16日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤15人	非常勤2人
常勤換算16.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造アルミニウム板葺き平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 80,000円	有りの場合償却の有無	無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 980 円			

(4) 利用者の概要 (7月 31日 現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 87.3 歳	最低	72 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立須坂病院・長野市民病院・長野赤十字病院・須坂歯科医師会
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは社会福祉法人グリーンアルム複合施設を母体を持ち、明確な理念の基、互いに連携を取り合い、福祉サービスの質の向上に取り組まれている。管理者は地域密着型サービスの確実な質の確保に向け、年度事業計画にテーマ「利用者の視線の先にある自分の姿」とし、重点目標・個別目標を立てると共に年間事業及び行事計画表を作成して職員と一緒にグリーンクリスタル理念を道標として、認知症になっても、その人の尊厳、個性、可能性、本人の願い(希望)を見出して、その人らしい人生を全うできるよう支援されている。また長野圏域のグループホームのネットワークづくりに管理者が積極的に取り組まれ関係者がお互いに交流と研修を深め、認知症高齢者が安心して暮らせる地域づくりに取り組まれている。職員の優しい見守りと寄り添いの支援により、入居者が安心感を持ってゆったりと過ごされている。ホームの『ふれあい通信』からも入居者の笑顔と屈託のない表情が伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	過去の外部評価での要改善点は、職員の取り組みと働きかけにより、改善が図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたり資料を基に、サービス評価の意義や目的について職員全員で話し合い、理解を深める取り組みが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホーム入居者、ご家族、地域住民、行政職員等幅広い立場の方々に参加し、定期的開催されている。グループホームグリーンクリスタル運営推進会議設置要綱を作成し、目的、組織、開催、議題通知方法等が組み入れられている。会議の議題の中には事業所内における利用者の状況やサービス提供の状況、サービス評価、サービスの要望や助言などが提起され活発な意見交換が行われている。ホームより委員の方々に、半日グループホームで過ごし、実際の様子を見て頂く機会をつくる旨が伝えられている。なお委員の方々より評価を頂きグループホームの質の向上に取り組まれる姿勢が伺えた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	契約時に重要事項説明書に記載されている苦情相談窓口の説明や、ホーム玄関に苦情申し立て箱を設置すると共に、運営推進会議や家族会において気軽に意見を出せる場面づくりに配慮されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事(JAのイベントや小学校の運動会等)に出かけ、地域の方々との交流に努められている。なお保育園児や小学生が遊びに来たり、中学生や高校生がボランティア活動に来られている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を活用しつつ、更に日々の方針や目標に具体化されたホーム独自の「グループホーム運営理念」がつくりあげられている。		「グループホーム運営理念」の中に、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える旨が組み入れられ、入居者・ご家族・訪問者(地域の方々)に理解いただける理念の構築が望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所・ホール等に掲示して、サービス提供にあたり閲覧できる体制と職員会等において地域密着型サービスとしての理念について話し合わせ、職員全員に理念の周知が図られ、日常のサービスに活かされている。なお職員採用時には、管理者よりホーム理念が伝えられ理解が得られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの食材は地元の専門店や農協で購入しており、JAのイベントに出かけたり、地元小学校の運動会に出かける等地域との交流に努められている。なお保育園児や小学生が遊びに来たり、中学生や高校生がボランティア活動に来られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	資料を基にサービス評価の意義や目的について職員全員で話し合い、理解を深め自己評価が行われている。なお外部評価の結果を会議等で全職員に周知をはかり、気づきをもとにケアサービスの質の改善に努められている。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホーム運営推進会議設置要綱をもとに開催し、ホーム理念の説明・運営状況・利用者状況・事業計画等の報告を行い、ホームへの理解を頂くと共に、地域とホームの双方向的な話し合いの場となるよう目指されている。なお外部評価結果を踏まえ、取り組んでいる内容について理解を頂いている。</p>		<p>共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくために、町会、自治会等に参加し、地域住民との交流の取り組みに向け運営推進会議等で検討し実行して行かれることに期待します。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当窓口を訪問し、ホーム運営に関わる相談掛けがされている。(ショートステイ認可や現在認知症対応型通所介護<共用型>実施に向け具体化等)なお毎月発行しているホームの広報誌『ふれあい通信』を各部署に送り連携を図られている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族がホームへ訪問時(面会時・家族会出席時・運営推進会議参加時等)に入居者の近況報告がなされている。毎月発行している広報誌『ふれあい通信』によりホームの様子や入居者の暮らしぶりが写真入で伝えられ、異動職員のメッセージと写真を載せ紹介されている。金銭管理については法人の管理規定に基づいて適切に行われている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム入居契約時に苦情相談窓口の説明やホーム玄関に苦情申し立て箱を設置すると共に、家族会の会長が相談窓口となり、ご家族の意見や要望を表出できる場面づくりに配慮されている。ご家族より意見や要望が出された時には全職員で話合わせ、速やかにサービス提供に反映されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体で新規採用を含め人事異動が行われる制約があるものの、管理者は入居者と職員の馴染みの関係づくりを大切にされており、職員の異動については必要以外には行わない方向で母体との調整に努められている。しかしやむなく異動・離職があった時には、ホーム広報誌に新任職員の紹介をすると共に入居者への影響を考慮して引継ぎ場面で最善の努力がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修予定表が提示され、各職員が希望する外部研修に参加されている。なお研修後には報告書を作成し、伝達研修や報告書が閲覧できる仕組みにより全職員に共有されている。また事業所内で開かれる勉強会やホーム内で実習を行う等、常に学ぶ機会が設けられている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>長野圏域グループホームのネットワーク化や宅老協会の情報交換・勉強会・相互訪問活動を通してサービスの質の向上に努められている。なお同業者との連携を図り、地域のニーズに迅速に対応していける旨を伺った。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者・ご家族によるホーム見学や昼間の体験利用・ショートステイ等の利用が可能になっており、不安なく馴染みの関係を築かれる工夫がされている。また複合施設内のケアハウスからの入居者は、日頃からの交流(お茶飲み・行事参加等)の積み重ねにより馴染みの関係づくりに配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、「入居者は人生の先輩である」という考えを共有しており、日常の関わりの中で入居者から学び支え合う関係づくりに配慮されている。なお一緒に過ごし、支えあう関係のなかで入居者の思いに共感しケアサービスに繋げる努力がされている。日頃入居者より慰められたり、励まされることが多いと伺った。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式により十分なアセスメントを取り、入居者の暮らし方の希望や意向を把握すると共に、日頃の関わりや会話の中より思いの表出に努められている。様々な視点から検討を重ね、常に入居者本位の生活が営めるよう配慮されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の関わりの中から得られた情報(入居者・ご家族よりの意見・要望等)を基に担当者が中心になってチーム全体でアセスメントが行われ、ケアプランが作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の遂行状況や効果などを定期的(3ヶ月に1回)に評価を行うと共に、入居者の状況変化が見られた時、また入居者・ご家族より要望があった場合等、実情に即した介護計画が行われている。(日々カンファレンスを行い、状況変化の見極めを行い、必要時には短期プラン<1週間単位から>も策定されている)</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師による医療連携や地域に向けた多機能化を目指して、ショートステイ機能・認知症対応型通所介護機能の実践に向けた対応や配慮がされている。なおご家族に代わっての通院介助やご家族の面会時に宿泊できる用意もされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医を継続していかれることを勧めると共に、ホームと複合施設の関係や医療機関との関係を説明し選択をしていただく等、入居者・ご家族の希望にそった医療機関での受診支援がされている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルに関する指針を作成し、入居契約時に説明をされている。ホームには看護職員が配置されており、常に入居者の身体状況の把握に努められ、状況変化ごとに入居者・ご家族・かかりつけ医と話し合いを重ね、ホームが対応しうる最大の支援方法について関係者と検討し方針を共有されている。看護職員が中心となって、知識・技術・判断力を身につける学習がされている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー確保に向けた研修やホーム理念にも謳われており、職員の意識向上が図られている。個人情報保護法についても勉強会を持ち周知し、日頃のケアに活かされている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の基本的な流れはあるものの、入居者一人ひとりの生活リズムを大切にしたケアに配慮すると共に、入居者の希望や尊厳を大切にしながら柔軟に対応されている。</p>		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食生活は重要な要素と考えており、時には広告を見て入居者と相談しながらメニューを決め買い物に行かれている。入居者の力量にあわせ、調理・盛り付け・食後の片付け・食器洗いなどを行う支援に配慮されている。なお職員と一緒にテーブルを囲み楽しく会話をしたり、介助が必要な方には寄り添いの支援により安全で楽しい食事が保たれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望を優先しながら状態確認(血圧・体温等)を行い、スムーズで安全な入浴ができるよう支援されている。なお入浴に困難な方(身体的・精神的)であっても入浴方法に配慮して、安心・安全を確保して、入浴を楽しめるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や日常の関わりの中より、入居者のできる事、楽しみ事等を把握して気晴らしの支援がされている。なお力量を發揮できる場面づくりへの配慮により、自信や活力につなげ主役になれるよう支援されている。(食事の準備・食事の挨拶・食後の片付け、掃除、庭の草取り、季節の漬物等)		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の見守りにより、入居者の希望に添って買い物やホーム周辺の散歩・施設内散歩、ドライブ、地域のお祭り等に出かけられるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを職員が認識されており、センサーを設置し日中は施錠されていない。入居者一人ひとりの行動パターンを把握しており、目配り・気配り・寄り添いの支援により離設による事故防止に取り組まれている。		

グリーンクリスタル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>入居者・地域消防団の方々に参加して頂き、年二回複合施設全体の夜間・昼間の想定防災訓練を実施されている。ホーム出火場所を想定した初期対応についてスタッフ会議において話し合わせ、設備面の工夫に取り組まれている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>健康管理表により入居者一人ひとりの食事量や水分摂取量が把握されると共に、職員が情報を共有し安定した食生活の支援がされている。なお複合施設内の栄養士による定期的な栄養バランスチェックを依頼されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には季節の鉢花が置かれ、廊下や居間には入居者が作られた貼り絵・刺し子の作品や入居者の思い出が詰まった写真等が飾られ、明るく、親しみと安心感の持てる家庭的な空間づくりに配慮されている。なお入居者が気軽にくつろげるソファや木彫椅子、テーブルが設置され思い思いの形態でゆっくり、ゆったりと過ごされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には入居者が馴染み親しんで使用してこられた品々(タンス・机や椅子・蔵書・仏壇等)が持ち込まれている。また家族写真や、思い出写真が飾られると共に使い慣れた日用品も用意され、思い思いの住み心地の良い居室づくりがされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。